
僕は五流大学卒の社長

マヨネーズ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕は五流大学卒の社長

【Nコード】

N2699A

【作者名】

マヨネーズ

【あらすじ】

五流大学卒の真田^{さなだ}洋助^{ようすけ}は普通の社員。学歴最悪の真田の人生のは、社長の一言で180度変わる事になる。

FILE：0 五流大学卒の僕

僕は二十六歳の普通の会社員の真田洋助。
今年五流大学を卒業した。

五流大学卒なので、当然学力は低い。
その上、運動もできない。

僕は文武両道の全く逆だと言いきっても、全く過言ではない。
僕は太ってはいないが、顔は良くない。

顔は大きく、目は小さい。

顔が大きいのに目が小さいのは、顔のバランスが悪いと言う事だ。
つまり、かつこ悪い。

彼女いない歴二十六年。

それは、当然の事なのかもしれない。
いや、絶対そうだと思う。

そんな僕だが、就職はできた。

五流大学卒で就職できたのは素晴らしい。

そう言いたいところだが、誰でも入社できる様な会社に就職したのだ。

会社員は二人。

二人といっても、その一人は社長だ。

かなり小規模な会社だ。

月給も当然安い。

僕は一人暮らしなので、激安な月給でも生活できる。
多少生活は苦しいが。

五流大学卒の僕にとっては、この激安な月給は高い方だ。
なんせ、就職するだけでも困難だったのだから。

僕はいつもの様に会社で仕事をしていた。会社とは言え、ここは社長の自宅である。社長の自宅の仕事部屋で仕事をしている。

仕事部屋には、板が所々はがれている汚らしい机が2卓あった。この汚らしいボロの机を使って仕事をしているのである。ボロの机を使うのはあまり気持ち良くない。

仕事部屋は4畳とても狭い。

壁には2Mほどの大きな穴があいていた。

その黒い穴からは、柱が見える。

普通の家では見られない光景だ。

しかし、この光景は見慣れているので、僕は平静を保つことができる。

穴の中にはほりがたくさんあるので、大分前に空いたのだと推測できる。

地震が起きたら一たまりもない。

小さい地震ならまだしも、大きい地震だったら一たまりもない。リホームしないと僕の命が危ない。

こんな環境で仕事を好んでしているわけではない。五流大学卒の僕には仕方ないのだ。

僕は仕事を怠れない。

部屋が狭いので、社長がすぐ側にいるからだ。

僕の机には山積みとなった書類が、どっさりと置いてある。

それを見ると僕は、顔が青くなり目まいがする。

勉強しておくべきだったと、毎日そう思う。

勉強していたら、こんな仕事をしなくてよかったのだ。

親の言う事を聞いておけばよかった。

そう思う事もあるが、僕は

『今さら悔やんでもしょうがない』

そう心に深く刻んでいる。

僕はポジティブな方だからそう刻めるのかもしれない。

僕が仕事をしていると、

白髪頭で、長い蚕の様な長い白ひげをぶら下げた社長が、僕に話しかけてきた。

「のどが渴いた。ジュースを買ってきてくれんか？」

死にそうな声で僕に頼んできた。

僕は断りたかったが、雇われてもらっている側なので断ることができなかった。

心よく引き受ける様な態度を装いながら承諾した。

社長から120円を受け取り、自動販売機に向かった。

僕はコーヒーを買い、社長の自宅の仕事部屋へゆっくり向かった。

仕事部屋に戻ってくると驚くべき光景を見た。

社長が血を大量に吐きながら、苦しみながら悲鳴をあげていた。

僕の心臓の音がいつもより明らかに早くなっている。

僕は平常心を失っていた。

平常心を失っている事もわからない状態だ。

慌てて白ひげの社長に近づこうとした時、

僕のジューパンのポケットから携帯が落ちた。

僕は携帯を見たとなんに119番を思い出した。

慌てた手で携帯をとった。

震えている手で119番を押した。

平常心をとりもどそうと試みた。

しかし、それは無理だった。

プルプルという音が耳に届く。

僕はいきなり社長の自宅の住所を告げた。

僕はかなりパニックだったが、相手は冷静に対処してくれた。
そのため、すぐに救急車が到着した。

ぶるぶると震えながら僕は社長の乗っている救急車へ乗り込んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2699a/>

僕は五流大学卒の社長

2010年12月28日03時05分発行